

# 令和6年二十歳のつどい 「高山へのアイデア」 作品集

「高山へのアイデア」について

二十歳を迎えた方を対象に、高山の課題と、それを解決するアイデアを募集しました。今回は、17点の応募作品の中から、市長賞1点、実行委員会賞5点を決定しました。

いただいたアイデアは、市政の参考とさせていただきます。ご応募いただいた皆さま、ありがとうございました。

高山市

高山市二十歳のつどい実行委員会

## 【市長賞】

美素 利香 さん

➤ 市の課題

私は、「子供が健やかに育つための街づくり」に課題があると考えます。現在、高山市では日本一広い市であるにも関わらず、多くの他の市に比べて子供たちの遊び場や居場所の充実さに欠けています。私自身も、もし将来結婚して子供を授かった場合にこのような課題を持つ市に対して安心して子供をここで育てようと思うことはできないかもしれません。

➤ アイデア

私は、自然を感じられるアスレチック施設の建設を提案します。子供達が健やかに育つためには、市の魅力を感じながらのびのびと生活することが必要です。現在、中学校での部活動は私達の時よりも活動頻度が減り、部に入部しない子達も多いと聞きました。ここで考えられるのは運動不足です。近年ではインターネットの普及により外出せず家の中でゲームをして遊ぶ子供達の増加が否めません。そこで、このアスレチック施設を建設することにより、市ならではの自然の豊かさを十分に感じられると共に、体を動かす機会を与え、楽しみながら運動不足を解消できるという利点があります。また、親世代、祖父母世代にも利用可能な施設を作ること幅広い年代の交流や健康増進に役立つのではないのでしょうか。さらに、このようなアスレチック施設に対して市内の人々だけでなく市外、県外の多くの人々が興味を示し訪れて観光業にも大きな利益が得られると考えられます。

## 【実行委員会賞】

### 都竹 桜英 さん

#### ➤ 市の課題

高山市は人口不足の一途にあります。それに伴う労働力不足で営業できなくなる店もあり、町の活気は次第に失われてきています。また、多くの若者は高校を卒業した後、進学や就職のために高山を離れます。自分もそうです。本来であれば私たちがリターンで高山に戻り、高山の未来を作っていくべきなのだろうとは思いますが、しかし、実際高山は仕事の選択肢が少なく、生活の便利さは都会には劣ってしまいます。私の友人たちも「高山は好きだけどやりたい仕事がないから高山には帰らない」「都会の暮らしの便利さを覚えたらもう高山には帰れない」と言っています。ですがこの状況を放置し故郷が廃れていくのを見るのはとても寂しいことですし、他地域から人口流入をするにもそう簡単に決断してもらうことはできません。とにかく高山は人がいないことで賑やかさを失っているのです。そのうち地元の人よりも観光客の方が多くなるかもしれません。

#### ➤ アイデア

提案するのは「活動人口を増やす」ことです。1つ目の案は、他地域の人でも参加できるイベント（ウルトラマラソンのようなもの）を開催することです。参加者としてイベントに来てもらうようにすることはもちろんですが、運営としても関わられるようにすることにより準備段階も多く足を運んでもらえ、高山への関心も高まると考えられます。2つ目の案は、空き家を活用した移住体験や、官公庁や観光業、伝統産業系の職業体験です。完全に移住や転職を決めることは難しいかもしれませんが、お試し程度なら気軽に関われると思います。これは地元の人にとっては労働力不足の助けに、参加者は良い人生経験になり双方に利点があります。以上のように、生活を制約しない程度ではありますが観光や帰省以外に足を運んでももらう工夫が大切だと思います。

### 杉崎 一樹 さん

#### ➤ 市の課題

小学生の人間関係

#### ➤ アイデア

様々な小学校が交流できるイベントの開催

だんだん少子高齢化になっていきクラスや学年の人数が減っていつの間にか、高校、中学に上がるに連れて友達や相談できる子がより作りにくくなっている。また、他

の小学校と距離があって、簡単に他校の子と遊んだり、交流できる機会が少ない小学校もある。だからこそ全部とは言わないが、2校3校の学校で何かイベントや遊ぶ場などを作って友達を増やしたりできると思う。また中学生に上がった際にもそこからより交流が増えたりすると思う。

## 匿名希望

### ➤ 市の課題

富山県との交流の増加

### ➤ アイデア

高山市は岐阜県の北部にあり、県庁所在地の岐阜市より富山県に近い町です。車で2時間程度で、岐阜、名古屋方面より近い為、ショッピングなどで富山へ行く人は多いと思います。逆に、富山から高山へ来る人も多くいるでしょう。富山出身の友人も「高山はすごく親近感がある。」と言ってくれました。でも、県が違うからなのか、東海地方と北陸地方の違いからなのか、情報や交流が少ないような気がします。そこで行政、学校、民間も含めてもっと交流をしてみてもどうでしょうか。山の町と海の町で交流、情報発信すればお互い新鮮なのではないでしょうか。県が違うと難しい点もあるのでしょうか。自然災害時の援助、救助、ボランティアも距離的に岐阜市より近くメリットは大きいと思います。高山市民、富山県民はお互い好意的です。これを生かしていけば行政、防災、経済で大きな効果があるのではないかと思います。

## 匿名希望

### ➤ 市の課題

老舗や農家などの後継者不足

### ➤ アイデア

インターネット、SNSなどを利用して地元の人たちだけでなく外の人たちにも価値や魅力を知ってもらい、なかでも「このお店、農家を継ぎたい」と思ってくれた人とマッチングサイトを用いて繋ぐ。また安定するまで金銭や住居等の支援を行う。

## 荒井 亮太 さん

### ➤ 市の課題

高山祭などの大規模なものや、神輿などの地域レベルの小規模なものを含めた地域行事や、一刀彫りや、春慶塗りなどの伝統工芸といった、地域文化の担い手の高齢化と、後継者不足。

➤ アイデア

伝統工芸などの物品を販売するようなものの場合、新たな販路の確保のために、市内市外問わず認識を広めることを目的として、伝統工芸に特化したインターネットサイトの設立や、SNSを用いた活動報告などの、ネット社会を活用したものがあると思います。

地域行事に関しては、大きな課題として、担い手である子どもたちが行事離れに近しい状態になっていることが挙げられ、この理由に、文化的価値を理解することが困難であることが要因だと思われます。そのため、子どもたちの「何でやらないといけないの」という意識を「やりたい」に変える必要があり、子どもたちの活躍を多くの人に知ってもらうために、新聞や SNS などを利用したり、市内で使えるクーポンの支給のような地域全体で一丸して担い手となる人たちのモチベーションを上げられるような仕組みが必要だと思います。

## 【全応募作品】

### 橋本 翼 さん

➤ 市の課題

高山市の人口減少(若者)

➤ アイデア

大きい土地を生かし、遊び場やショッピングモールなどたくさんの施設を建てることでただ建てるのではなく高山の自然に溶け込めるデザインの建物にすれば環境にも配慮ができ、職も増え人も集まるような町にできると思います

### カワカミ さん (ペンネーム)

➤ 市の課題

自然が大事

➤ アイデア

森林保護をする

### 加藤 友章 さん

➤ 市の課題

子供の遊び場が少ない。

➤ アイデア

私は、高山市民の子供が遊ぶところが少ないと思う。みんな公園でバスケをしたり家の庭で卓球したりスケボーなどをしている。

室内バスケコートや、学生無料のレンタル式卓球台(複数台)ができる場所を作るべきだと思う。地域の交流センターという名前にして市で経営し、そこには学食のようなパン屋や学生でも買いやすい値段のお店をだし、無料できた子供に買ってもらい利益を出すことがいいと思う。

### Earth さん (ペンネーム)

➤ 市の課題

観光地のポイ捨て問題への支援策

➤ アイデア

教育の一環として、幼稚園や保育園、小学校の子どもたちにゴミ拾いをする時間を作っ

てゴミを回収する。

その結果、町が綺麗になり、子どもたちは改めて自分たちの町の事を知ることができる。

そして、ポイ捨てがどのようなものなのかを学ぶことができる。

つまり、町を綺麗にしつつ、ポイ捨て問題について小さい子どもたちに深く考える時間を作ることができる。

## 匿名希望

### ➤ 市の課題

高齢化社会に付いて

### ➤ アイデア

若者が長い時間過ごせるように地域の良さを活かしつつも子育てや生活のしやすい環境を整備する。そうすることで他県に出ていった若い人たちも帰ってきて長い時間生活する人が増えると考ええる。

## 匿名希望

### ➤ 市の課題

高山市の課題は、高齢者への支援が十分に行えていないことであると考ええる。

高山市の高齢化率は、日本の高齢化率を大きく上回っており超高齢社会といわれている。また、高齢化率が40%を超えるところもあり、過疎地域が存在しているのが現状だ。

そのような地域に住む人々は若者世代との関わりが少なかったり、買い物に行くにも交通の便が整っていなかったりして不便な状況が続いている。最近では免許返納が勧められているため、車を所有してない高齢者も多くいる。また、高齢者世帯が多いため将来的に老老介護を行わなければならない、QOLの低下によって病気にかかりやすくなるなどさまざまな課題がある。

上記に述べたように十分な支援が行われていないことで、高齢者が健康に生活できる環境が無くなる。それが今の高山市の課題であると考えた。

### ➤ アイデア

この課題に対して、考えたアイデアは2つある。

1つ目は、若者世代との関わりを持てる場所を提供することだ。コミュニケーションを取ることで高齢者にとって、良い気分転換となる。そこでは、軽く運動をしたり、昔の歴史を小中学生に伝えたりすることが良いと考える。運動をすることで身体機能の向上に繋がる。また、昔の歴史を伝えることで高齢者の認知機能の予防にもなり、小中学生にとっても良い学びの場となるだろう。

2つ目は、宅配サービスだ。高齢者は、移動手段が無いことで、家に引きこもりがちになってしまう傾向がある。それによって、QOLの低下が見られる。少しでもQOLを向上するために、高山市で日用品や食料の宅配サービスを月に2回程行うことが良いと考えた。また、宅配サービスを行うと同時に家庭状況を知り、高齢者の相談に乗ることも大切だ。

これらによって高齢者が健康に生活できる環境をつくれると考えた。

## 山口摩子さん

### ➤ 市の課題

少子高齢化と人手不足、空き家の活用方法

### ➤ アイデア

現在、高山市を出て、県外に行く若者が多い。このままでは、どんどん若者がいなくなってしまう。そのため、空き家を活用することがいいと思う。例えば、地元に残った人、Uターンで帰ってくる人、または移住希望の方に、リフォームした空き家を格安で提供するのはいかがでしょうか。少しでも帰ってこようと思ってくれたり、地元に残ろうとしてくれる人は増えると思う。それだけでなく、外国人労働者の方のための、家にすれば高山市の手不足も解消されるのではないかと。

## 匿名希望

### ➤ 市の課題

待機児童対策

### ➤ アイデア

帰っても親の帰りが遅く、夕ご飯までお腹を空かせている子供達のためにおやつを提供する場所を作りたい。公民館などを利用者し、子供達が無料でおやつを食べられるような「子供おやつ食堂」を定期的で開催する。ここでは季節のおやつや高山ならではのおやつも提供し、文化にも触れられるような時間にしたい。

## 野球女子 さん（ペンネーム）

### ➤ 市の課題

豊かな自然を生かした観光の発展

### ➤ アイデア

夏の時期は宮川に川床を設置して川で涼みながら地元料理を堪能して頂く。  
夜もライトアップして営業し日帰り旅行ではなく宿泊して頂けるよう、昼も夜も楽しんで

で頂けるようにする。

冬の時期は指定された公園で一定期間を除雪した雪置き場として管理し、観光客にかまくらや雪遊びできる場所として提供する。

特に2月は観光客が1番少ない時期なので、観光客にとっても観光もでき、市内で雪遊びができる場所があるのは魅力的である。

最後にシーズンを通して楽しめるアクティビティとして、原山にグランピング施設を作ったら良いと考えます。原山はドッグランもあり、周りは木々もあり夜は高山市内でも星がキレイに見える場所でもあります。また冬の時期は市内でも積雪が多い地域で雪遊びができ、春先でもグランピング施設の窓から、原山の馬の背の残雪がみれたり、雪景色の乗鞍の山々が大変素晴らしいので大変人気のある施設になると思いました。

## くろてつこやなぎ さん（ペンネーム）

### ➤ 市の課題

外国人観光客が、高山や日本の文化を理解しきれないこと。

### ➤ アイデア

近年、新型コロナウイルスの5類感染症への移行などを受けて、高山にも観光客が戻ってきている。岐阜新聞によると、昨年秋の緩和前はほとんどが国内客だったが、現在は平日であれば5割ほどが海外からの客だという (<https://www.gifu-np.co.jp/articles/-/192070>)。外国人観光客にその場所や文化、街並みを理解してもらうことで飛騨高山への旅行をより良い思い出にってもらうことが必要だと考える。そのために、高山市内の観光スポットにQRコード付きの説明書きを立てることを提案する。QRコードを開いた先には最初に言語選択のページを設けて、多言語に対応する。その場所の概要をはじめとする昔の高山の様子やオススメの観光スポット、観光スポットを中心としたマップ、季節特有の高山の写真、クーポンなどを掲載することでより高山の魅力を伝えることができ、また来たいと思ってもらえると思う。

## 匿名希望

### ➤ 市の課題

少子高齢化

### ➤ アイデア

私が考えるアイディアは『自由な教育モデルの実施』です。

一見、少子高齢化と聞くとマイナスなイメージが湧くかと思いますが、逆に言い換えると少子高齢化は「子どもが少なくなった分、その子どもを見守ることのできる大人が多い状況」と捉えることができると思います。

この特徴を大人が積極的に教育に関わるという形で最大限に活かしていけば良いと思います。そのような特殊な自由を主とした教育モデルを全国でも実施し、高山育ち・高山出身を自慢できるような、教育界での高山ブランドを確立すべきなのです。そのようにすれば現在の高山市に必要な人・物・お金が他の地域から流入し、結果として高山市の活性化に繋がるのではないかと思います。